



エクスカーション：兵庫県淡路島の淡路島のり種苗センターの前浜。参加者の多くが、砂浜に打ち上がっていた海藻類を興味深げに採取していた。

め、パワーポイントスライドをもらえないか」、「発表内容と類似した混合養殖で我が社は国際特許を申請中だ」など、研究者だけではなくエビや海藻ビジネスに携わる人々から声をかけられることが多かった。これまでほとんど産業とは無縁の研究を行ってきたが、現在取り組んでいる研究は、ビジネスに直結しているのだという認識を新たに持つと共に、研究結果や成果の取り扱いには十分気をつけなければならないことを実感した。

エクスカーションでは養殖場見学コースの引率を経験した。前日の天気予報では降雨が心配されたが、午前中やや曇りがちであったものの、午後からは晴れ間が広がった。養殖場や加工場の方々は懇切丁寧な説明をいただき、参加者からは多くの質問が出され、みな大いに楽しまれたようだ。関連施設の方々に心から感謝したい。ただエクスカーションの出発前にかかなりの混乱が起こった。参加者の班分けが、張り出されていなかったためである。事務局からは二枚の異なる班分けメモが配られ更に混乱が増幅された。参加者の中には、怒



エクスカーション：兵庫県播磨町のり流通センター。兵庫のノリ養殖の歴史から現状・加工の工程などについて詳しく説明して頂いたあと、工場内と洋上養殖場を見学した。

りをあらわにし大声を上げて不満を煽る西洋人もいて、自己主張の強い西洋文化との違いも感じた。前日までに班分けメモを掲示するなど対処できることであろう。とはいえ筆者が担当した班の中には、当日参加コースを変更したいと申し出て、大野先生のご配慮で参加コース変更が可能になり非常に喜んでいた方もいた。

クロージングセレモニーのあと、多くの方々と再会を約束して握手をした。旧来の知人もいる。今回新たに知り合いになった参加者もいる。数日間会場とコンピュータ部屋の間を共に走り回った会場係仲間もいた。学問的新知見を雑誌で読むのではなく、多くの研究者と知り合いになれることが、シンポジウム参加の意義なのだあらためて感じる。

最後に、シンポジウム日本大会会長である有賀祐勝先生と大会事務局長である大野正夫先生と握手をして、会場をあとにした。シンポジウムの大いなる成功に感謝の意を表して。

(独立行政法人国際農林水産業研究センター)

## 藻見遊山

新刊 DVD

### 海藻産業の更なる発展にむけて 日本の海藻産業 (英語版・日本語版)

映像 1. 海苔 映像 2. 寒天 映像 3. わかめ

標記ビデオ3巻がDVD化された。かつての日本語版「海苔」と「寒天」は、石川依久子先生が自ら撮影して制作し日本藻類学会から販売されていたVHSであった。日本語版「わかめ」は全漁連、岩手漁連、みやぎ漁連の共同で制作されたものを制作者の許可を得て一部削除したのから英語版DVDが制作された。第19回国際海藻シンポジウムに向けて製作されたもので、DVDには日本語版と英語版が収録されている。それぞれ約15分の映像であるが、必要な知識がわかりやすくまとめられている。外国からの来客、セミナーや講義の副読本として非常に有用である。英語版と日本語版を聞き比べることにより、英語での表現を学ぶ良いテキストにもなるだろう。

企画・制作・撮影：石川依久子 (元東京学芸大学教授)

編集・撮影：土屋康文 (総合ビデオサウンド)

価格：2,500円 (送料込み)

申し込み先：日本海藻協会事務局 (mohno@cc.kochi-u.ac.jp)

(大野正夫)

#### 海藻産業の更なる発展に向けて 日本の海藻産業

For Further Development of Seaweed Industry  
-Seaweed Cultivation and Industry of Japan-

映像集

	日本語	English
Film1	海苔	NORI (Porphyra)
Film2	寒天	KANTEN (Agar)
Film3	わかめ	WAKAME (Undaria)

企画・製作・撮影：石川依久子 (元東京学芸大学教授)  
協力：大野正夫 (高知大学名誉教授)  
編集・制作：土屋康文 (総合ビデオサウンド)